

平安京右京三条二坊十五町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十五町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平米から、数千平米におよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび高速鉄道東西線建設工事に伴います平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

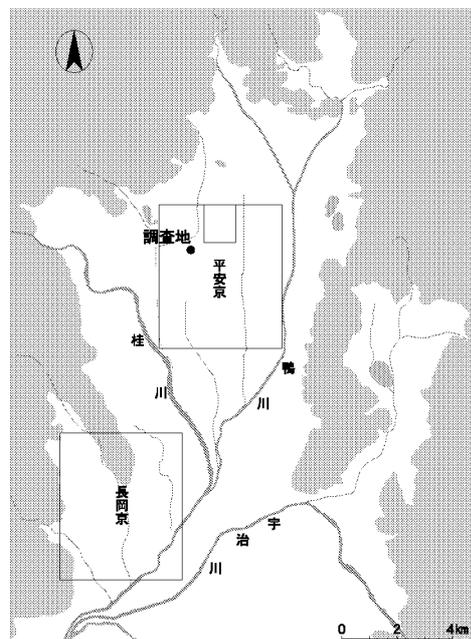
平成16年3月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条二坊十五町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京東中合町
- 3 委託者及び承諾者 京都市交通局長 江草哲史
- 4 調査期間 2003年11月4日～2003年12月26日
- 5 調査面積 約150m²
- 6 調査担当職員 津々池惣一
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度（座標および標高は、京都市遺跡測量基準点を使用した）
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 挿図の順に通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子・調査担当職員
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 作成担当職員 津々池惣一



（調査地点図）

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 1 . 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 . 遺 構 | 3 |
| (1) 第 1 面の遺構 | 3 |
| (2) 第 2 面の遺構 | 4 |
| (3) 第 3 面の遺構 | 4 |
| (4) 第 4 面の遺構 | 5 |
| 3 . 遺 物 | 7 |
| (1) 平安時代中期 | 7 |
| (2) 平安時代後期 | 8 |
| (3) 室町時代 | 9 |
| (4) 江戸時代 | 9 |
| 4 . ま と め | 11 |

図 版 目 次

| | | |
|------|----|--|
| 図版 1 | 遺構 | 第 1 面遺構実測図 (1 : 100) |
| 図版 2 | 遺構 | 第 2 面遺構実測図 (1 : 100) |
| 図版 3 | 遺構 | 第 3 面遺構実測図 (1 : 100) |
| 図版 4 | 遺構 | 第 4 面遺構実測図 (1 : 100) |
| 図版 5 | 遺構 | 1 第 1 面全景 (東から) 2 第 2 面全景 (西から) |
| 図版 6 | 遺構 | 1 第 3 面全景 (東から) 2 第 4 面全景 (西から) |
| 図版 7 | 遺構 | 1 建物 (北東から) 2 土壇96 (西から) |
| 図版 8 | 遺物 | 1 土壇96出土遺物 2 野寺小路川出土遺物 |

挿 図 目 次

| | | |
|-----|-------------------------|----|
| 図1 | 調査地位置図(1:2,500) | 1 |
| 図2 | 周辺調査配置図(1:5,000) | 2 |
| 図3 | 調査前全景(東から) | 3 |
| 図4 | 試掘調査風景(東から) | 3 |
| 図5 | 土壌13(北東から) | 4 |
| 図6 | 柵(北から) | 4 |
| 図7 | 柵実測図(1:50) | 5 |
| 図8 | 建物実測図(1:50) | 6 |
| 図9 | 土壌96出土遺物実測図(1:4) | 8 |
| 図10 | 野寺小路川出土遺物実測図(1:4) | 9 |
| 図11 | 野寺小路沿い調査地遺構配置図(1:1,000) | 10 |

表 目 次

| | | |
|----|------------------|---|
| 表1 | 平安京右京三条二坊発掘調査一覧表 | 2 |
| 表2 | 遺構概要表 | 3 |
| 表3 | 遺物概要表 | 7 |

平安京右京三条二坊十五町跡

1. 調査に至る経緯

本調査は、西大路御池交差点の北西に予定されている京都市営地下鉄東西線建設工事（西大路駅工区）の出入口工事に伴う試掘および発掘調査である。調査対象面積は約150㎡あり、予定地を4面に分けて調査を実施した。調査は2003年11月4日より開始、12月24日までに調査を終了し、12月26日までに資材等を撤去した。

調査地は、平安京右京三条二坊十五町の南東部にあたる。調査地周辺では、多くの発掘調査が行われている（図2・表1参照¹⁾）。近辺は平安時代に野寺小路と側溝が南北に走り、その西は当該時期の建物跡の存在が知られている。また、平安時代後期には野寺小路は流路となることが、これまでの調査で判明している。

今回の調査では、近世の耕作溝および土採り穴、室町時代の耕作溝と区画溝、平安時代後期の野寺小路川や柵、平安時代中期の土壌や南北溝と西に広がる建物の一部などを検出している。

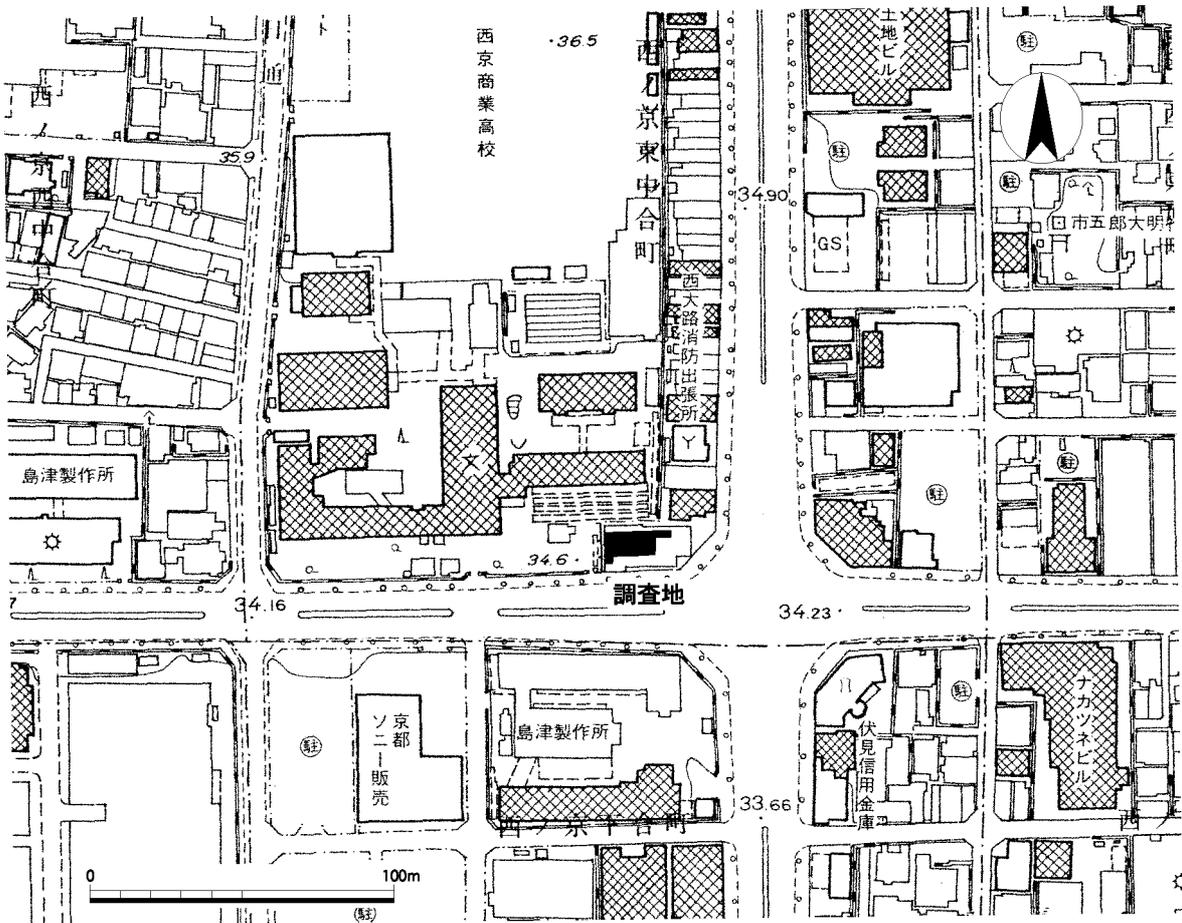


図1 調査地位置図(1:2,500)

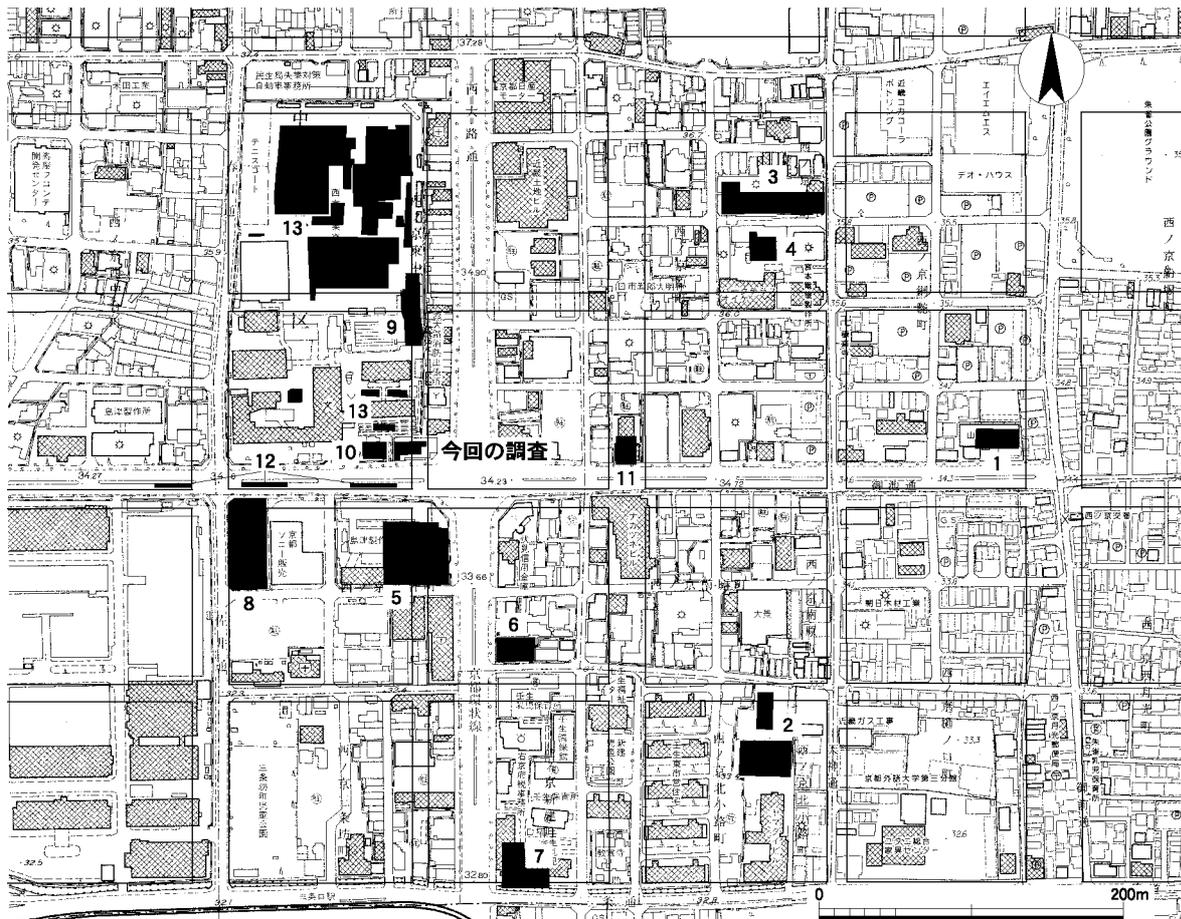


図2 周辺調査配置図(1:5,000)

表1 平安京右京三条二坊発掘調査一覧表

| 番号 | 調査地区 | 所在地 | 調査期間 | 調査概要 | 備考 |
|----|----------------|-----------------------------|---------------------------|--|---|
| 1 | 二町 | 中京区西ノ京銅路駝町76 | 1981.10.21～ 1981.11.20 | 平安時代の建物3棟、井戸1基、溝2条、 柵1条などを検出。 | 平安京跡発掘調査概報 昭和56年度 京都市文化観光局 1982年 |
| 2 | 五町・姉小路 | 中京区西ノ京北小路町4 他 | 1985.10.21～ 1986.2.17 | 姉小路南側溝、平安時代の建物7棟、柵 4条、井戸1基、溝5条を検出。 | 昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年 |
| 3 | 八町 | 中京区西ノ京原町97 | 1986.12.8～ 1987.3.23 | 平安時代の建物1棟、井戸2基、溝1条、 園池の一部、川などを検出。 | 昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1989年 |
| 4 | 八町 | 中京区西ノ京原町99 | 1990.3.15～ 1990.5.11 | 3の調査に連続する園池の一部、柱穴な どを検出。 | 平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年 |
| 5 | 十一・十四町 野寺小路 | 中京区西ノ京下合町11 | 1989.11.30～ 1990.2.23 | 三条坊門小路南側溝、野寺小路東西側 溝、柵2条、川跡を検出。 | 平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年 |
| 6 | 十一町 | 中京区西ノ京下合町41 | 1993.11.15～ 1993.12.10 | 平安時代の井戸、土壇、溝、柱穴などを 検出。 | 調査主体：古代文化調査会 発掘調査終了報告書 1994年 |
| 7 | 十二町 | 中京区西ノ京新建町 5-14～5-30 | 1978.11.10～ 1978.12.28 | 建物3棟、平安時代前期の井戸1基、平 安時代以前の可能性のある溝などを検出。 | 平安京跡発掘調査概要 京都市埋蔵文化 財研究所概要集1978 1979年 |
| 8 | 十四町 | 中京区西ノ京下合町地内 | 1998.3.19～ 1998.6.26 | 三条坊門小路南側溝、平安時代の建物8 棟、門2棟、柵8条、井戸3基と道祖大 路川などを検出。 | 平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年 |
| 9 | 十五・十六町 野寺小路 | 中京区西ノ京東中合町1 京都市立西京商業高等学校 | 1981.7.3～ 1981.7.31 | 押小路両側溝、建物1棟、井戸1基、中 世の野寺小路川などを検出。 | 昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年 |
| 10 | 十五町 | 中京区西ノ京東中合町7 京都市立西京商業高等学校 | 1987.5.18～ 1987.6.12 | 平安時代の溝4条、柱穴などを検出。他 に中世の井戸がある。 | 昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年 |
| 11 | 西堀川小路 | 中京区西ノ京原町64 | 1982.6.17～ 1982.7.10 | 西堀川小路の堀川・路面2面・西側溝な どを検出。 | 昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年 |
| 12 | 十五町 | 中京区西ノ京東中合町 | 2001.10.22～ 2001.11.29 | 平安時代前期の土壇、井戸、柱穴を検出。 他に室町時代の溝がある。 | 平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 2002年 |
| 13 | 十五・十六町 押小路 | 中京区西ノ京東中合町7 京都市立西京商業高等学校 | 1999.7.21～ 2001.3.14 | 十六町では建物群と庭園・泉など、1町 規模の邸宅を検出。 | 平安京右京三条二坊十五・十六町 -「齋宮」の邸宅跡- 京都市埋蔵文化財 研究所調査報告第21冊 2002年 |



図3 調査前全景（東から）



図4 試掘調査風景（東から）

2. 遺 構

今回の調査は、第1面から第4面で遺構を検出した。第1面においては江戸時代の耕作溝および土採り穴を、第2面においては室町時代の耕作溝および溝を、第3面においては平安時代後期の野寺小路川や柵などを、第4面では野寺小路の西側溝想定部分より西に広がる建物の一部などを検出した。

以下に、これらの遺構の概略を報告する。

(1) 第1面の遺構（図版1・5）

近世、江戸時代の遺構面である。この面の特徴としては、調査地東寄りには土採り穴が大半を占め、それより西は耕作に伴う溝が占める。

耕作溝群 規模は小さく幅0.2m、深さ0.03m前後のものが多い。東西方向の溝はわずかで、南北方向の溝が多い。長さは、攪乱によって確認できないもの以外は調査地を越えて延びている。近世の耕作に伴う畝などの溝であろう。

溝20 溝の検出規模は、幅は北側で0.5m、南側で0.2m前後、深さ0.05mである。長さは7.3m以上で調査地を縦断する。溝の東側は近世の耕作土により削平されている。北端は野寺小路築地

表2 遺構概要表

| 時 代 | 検出面 | 遺 構 |
|--------|-----|-------------------------------|
| 平安時代中期 | 第4面 | 建物、溝46、土壇96 |
| 平安時代後期 | 第3面 | 野寺小路川(川57)、柵、柱穴群 |
| 室町時代 | 第2面 | 耕作溝群、溝60 |
| 江戸時代 | 第1面 | 耕作溝群、溝20、土採り穴群(土壇13・15・18・19) |



図5 土壇13(北東から)

心想定線にほぼ重なり、南端では東へ0.6mずれている。

土採り穴群(図5) 土壇13・15・18・19が対応する遺構である。規模は、大きいもので東西3.5m、南北2.5m前後を測り、深さは1.8mになる地点もある。平安時代の野寺小路の西側半部を占有する形で東西方向に長方形に掘られている。地山である黄褐色粘土層(聚楽土)の土を採取しており、砂礫層上面で止めている。

(2) 第2面の遺構(図版2・5)

中世、室町時代に想定される遺構面である。耕作や区画に関連する遺構以外は見当たらない。

耕作溝群 規模は幅0.4m、深さ0.05m前後である。南北方向のみで、いずれも調査区外に延びる。耕作に伴う畝などの溝である。

溝60 溝の規模は幅1.0m前後、深さ0.05mで、長さ7.3m以上で調査地を縦断する。野寺小路川の埋没後にその西肩部に沿うように南北に走る溝である。

(3) 第3面の遺構(図版3・6)

この面での検出遺構は、平安時代後期の野寺小路川とその肩部に沿って設けられた柵、そしてその西に散在する柱穴群である。



図6 柵(北から)

野寺小路川(川57) 野寺小路に沿う形で南北に走る。川幅は検出部分で7.0m、深さは1.8mを測る。川の堆積土は何層かに分かれるが、室町時代には埋没したものと思われる。溝底部は起伏が激しい。

柵(図6・7) 野寺小路川の西側の肩部に沿って、不規則な柱間を示す柱列が検出された。柱間は0.5~2.5mと一定しない。柱穴の規模は0.2~0.4mで不揃いである。柱列の並びから、少なくとも新旧2時期あると想定される。これは、川の護岸的要素とともに西に広がると想定される住居との区画をなす性格のものでもあろう。

柱穴群 柵の西側には柱穴が散在している。この部分は、現代の攪乱が地山を掘り込んでおり、浅い遺構は大半が削平されていると思われる。柱

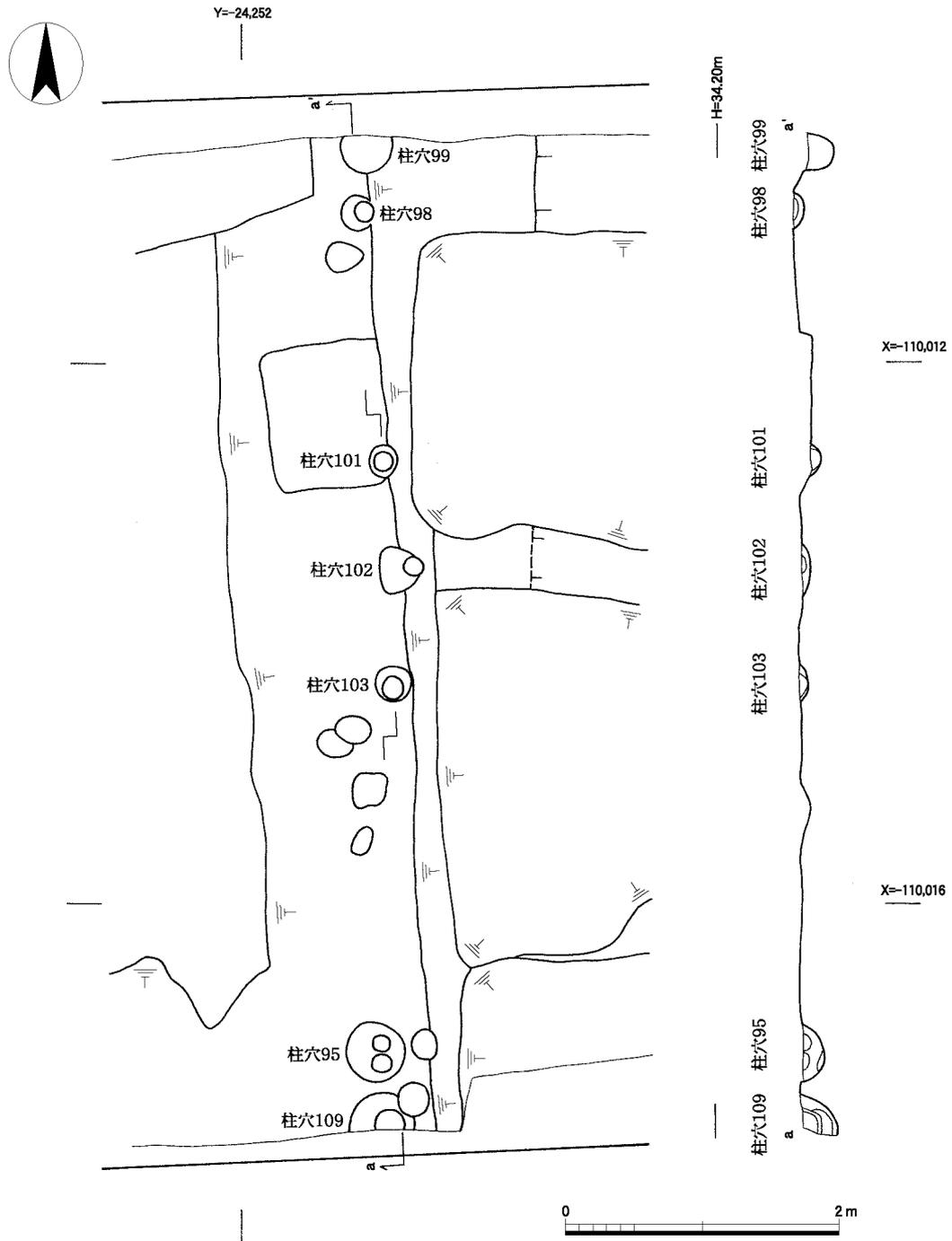


図7 柵実測図(1:50)

穴は0.2~0.4m大のもので、深さは0.05mに満たないものがほとんどである。建物跡には復元できない。

(4) 第4面の遺構(図版4・6)

野寺小路の西側溝は、近世の耕作土層や土採り穴によって削平されていると考えられ、これまでの調査から推定された位置には見いだせなかった。検出した遺構は建物の一部と溝、土壌である。平安時代中期の遺構面と想定する。

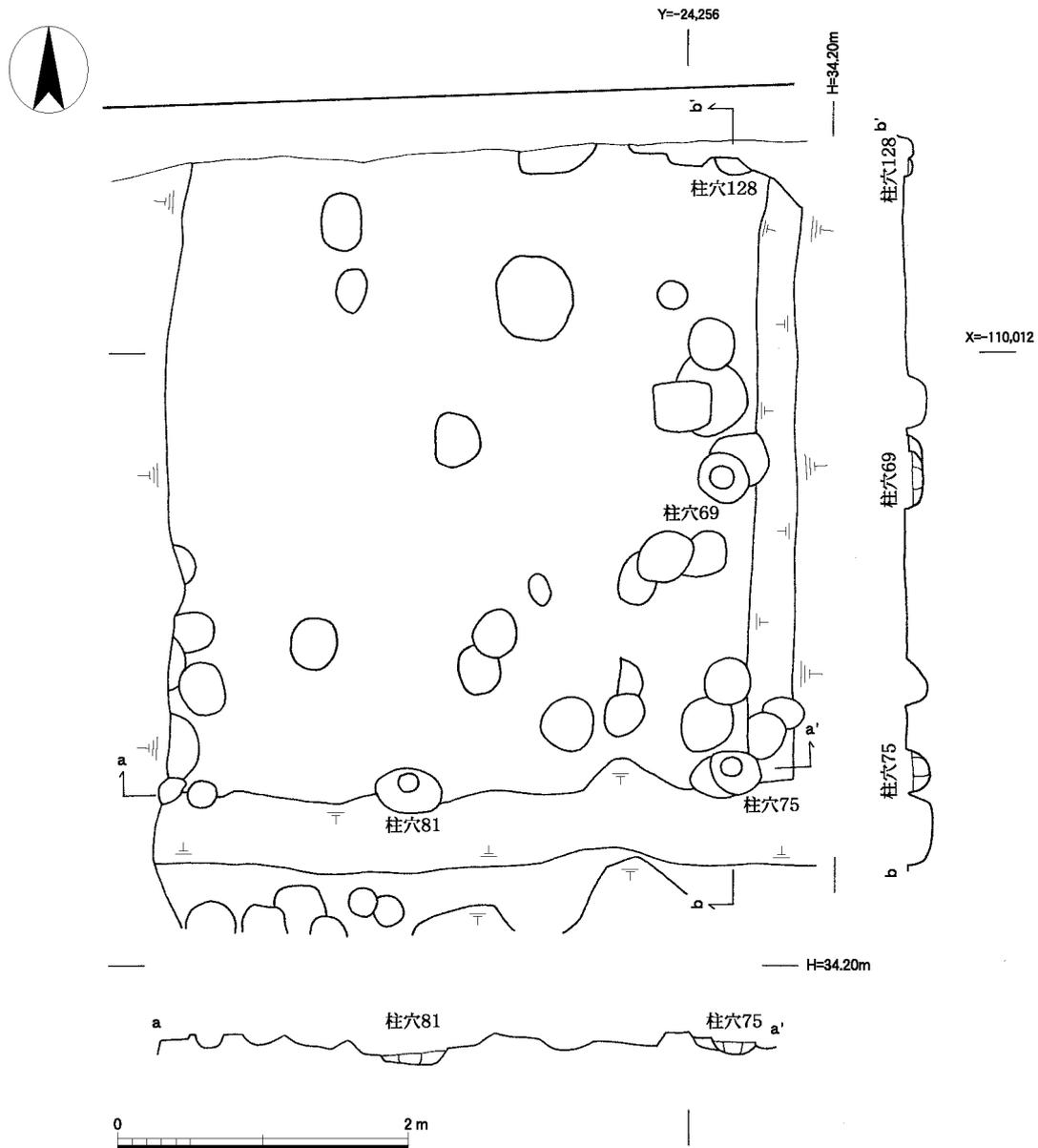


図8 建物実測図(1:50)

建物(図版7、図8) 南北2間以上、東西1間以上を想定できるものである。柱間は2.1mを測る。柱穴は径0.3m前後で、深さ0.1m未満である。時期は出土遺物から平安時代中期と考えられる。その他、建物に復元できない柱穴が重複しており、少なくとも2回の建て替えが想定される。規模が小さく、近辺に想定される邸宅の中心的建物とは考えられない。

溝46 野寺小路西築地心想定線より西へ1.6mの位置にある南北溝である。幅0.5m、深さ0.2mで、座標北に対して若干東に振れる。西に広がる地域(宅地)との区画溝の可能性はある。

土壇96(図版7) 長径3.0m、短径2.0mを測る楕円形状の土壇である。深さは0.3mで緩やかな窪地状を呈している。埋土には炭が混入している。

3. 遺物

出土した遺物の総計は、コンテナで30箱ある。遺物の種類はごく少量の瓦片を除いては、ほとんどが土器類である。

(1) 平安時代中期 (図版8、図9・10 1~23)

土壙96から一括の土器類が出土している (図9 - 1~15)。

1~6は土師器皿である。口径は10cm大のもの、12cm大のもの、15cm前後のものがある。成形は口縁部を外反させ、端部をわずかに立ち上げ、調整はヨコナデを施すものである。

7は緑釉陶器皿である。口径14.7cm、器高3.2cmである。ミガキの後、全面に施釉する。高台は削り出しの輪高台で、京都産の製品である。8は緑釉陶器皿で、ミガキの後、全面に施釉する。高台は貼り付けており外に開く。東海産である。

9は灰釉陶器椀の底部である。やや外側に開く高台を貼り付け、薄手に成形し、釉薬は浸け掛けにしている。底部内面には重ね焼き痕跡が残る。10は灰釉陶器皿である。口径12.8cm、器高2.4cmを測る。やや厚めの底部から、ゆるやかに薄手の体部を立ち上げている。高台は低く丸みのあるものを貼り付けている。11は灰釉陶器椀で、下半部のみが残存する。外広がりの高めの高台を貼り付けている。釉薬は、底部内面は刷毛塗りで、体部については浸け掛けである。底部内面の見込みには重ね焼きの痕跡が残る。12は灰釉陶器の小型の壺である。口径6.5cmで、釉薬は外面と口縁部より下の内面に2cmほどに施している。

13は須恵器鉢である。口径は18.2cmに近い。口縁部下部を内湾させ、端部を玉縁状におさめている。14は須恵器の鉢である。焼成があまく軟質である。口径19.6cm、器高8.6cmである。磨滅が激しいが、ゆるやかに内湾する体部は口縁部でゆるく外反する。体部下半はケズリ、口縁部をナデ調整している。搬入品と思われる。15は須恵器甕である。口径は18.0cmを測る。外面には格子

表3 遺物概要表

| 時代 | 内容 | コンテナ箱数 | Aランク点数 | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|--------|----------------|--------|---------------------------|--------|--------|
| 平安時代中期 | 土師器・須恵器・緑釉陶器など | 8箱 | 土師器6点、緑釉陶器6点、灰釉陶器8点、須恵器3点 | 7箱 | 0箱 |
| 平安時代後期 | 土師器・白磁など | 3箱 | 土師器2点、輸入白磁1点 | 3箱 | 0箱 |
| 室町時代 | 土師器・瓦質土器・施釉陶器 | 2箱 | | 0箱 | 2箱 |
| 江戸時代以降 | 土師器・染付・施釉陶器 | 18箱 | | 0箱 | 18箱 |
| 合計 | | 31箱 | 26点 (1箱) | 10箱 | 20箱 |

コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

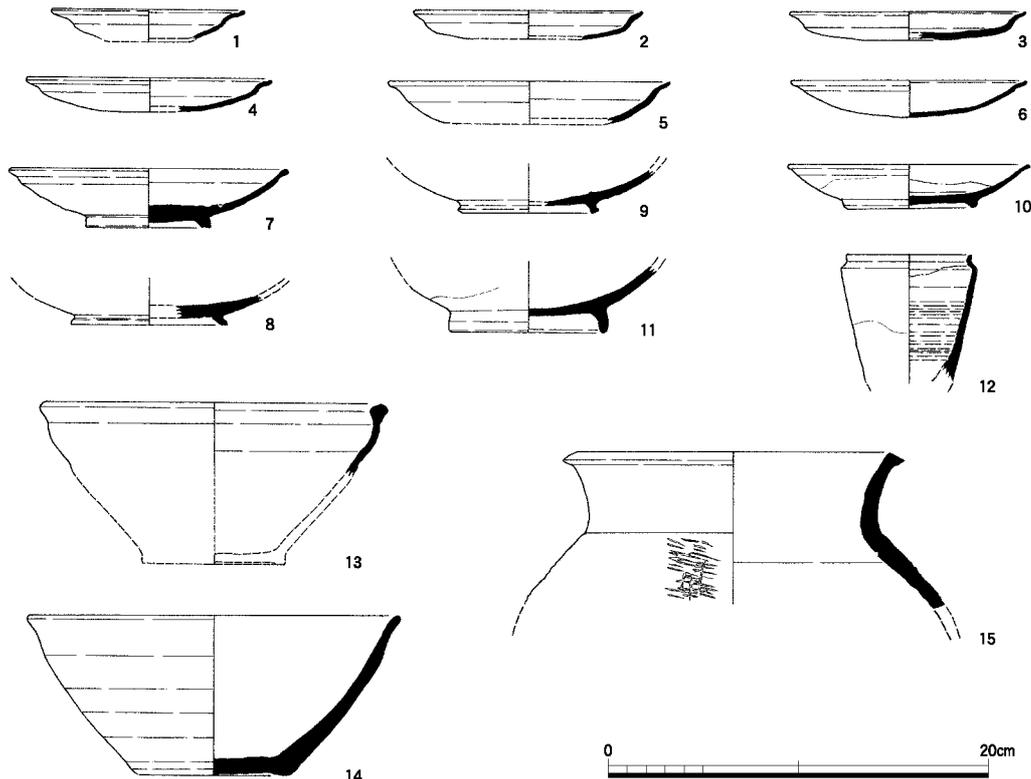


図9 土壙96出土遺物実測図(1:4)

状のタタキが認められる。

図10の16~23は野寺小路川の埋土から出土したものである。

16は灰釉陶器皿である。わずかに外反し、丸みのある高台を貼り付けている。体部に近いところには薄い施釉痕が認められる。17は灰釉陶器椀である。断面三日月状の高台を貼り付けている。施釉の有無は不明である。18は灰釉陶器壺である。幅の広い高台を貼り付けている。内面には薄く自然釉が付着する。19は灰釉陶器短頸壺である。肩部が急激にすぼまり、頸部を短く立ち上げ広口になっている。釉薬は外面に施している。

20は緑釉陶器椀である。高台は削り出して輪高台としている。施釉は内外面を施釉している。内面に重ね焼きの痕跡がある。21は緑釉陶器皿である。高台は削り出して蛇の目高台としている。底部外面は露胎となっている。山城産であろう。22は緑釉陶器椀である。段状に内傾する高台を貼り付ける。深緑の釉薬を内外面に施す。底部内面の見込みには沈線を巡らす。トチン痕跡が2箇所ある。近江産の可能性もある。23は緑釉陶器椀である。高台は削り出して輪高台としている。ミガキの後、全面に施釉する。丹波産と思われる。

これらの遺物は10世紀中葉前後までにおさまる。

(2) 平安時代後期(図版8、図10 24~26)

野寺小路川の埋土から少量出土している。土師器皿や白磁椀などが出土している。

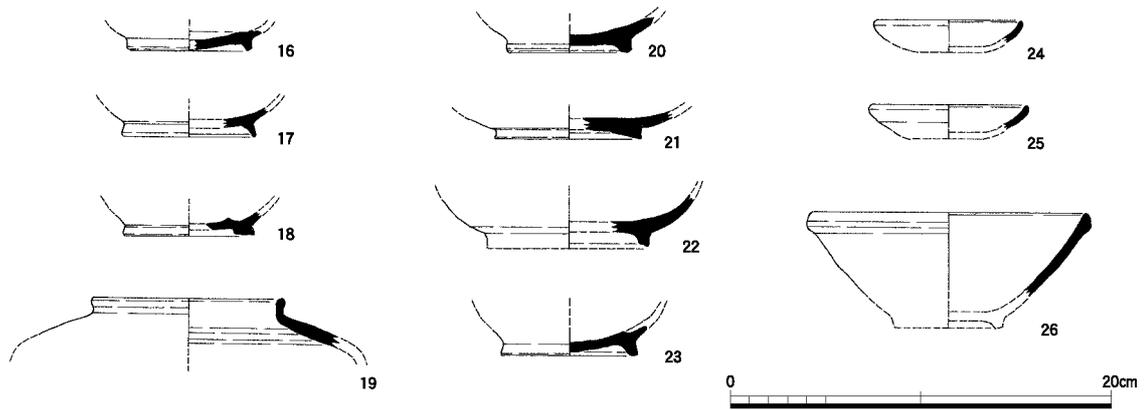


図10 野寺小路川出土遺物実測図（1：4）

24・25は土師器皿である。ともに口径8.0cm前後、器高2.0cm以内である。体部は内湾し、口縁端部は立ち上げて三角形状をなす。

26は輸入白磁椀である。口径15.0cm、器高は6.0cm前後と思われる。体部はゆるく内湾、口縁部を玉縁としている。内外面に施釉されている。福島地方窯と思われる。

これらの遺物は12世紀前半代におさまる。

（3）室町時代

室町時代の遺物は全体に少ない。主に耕作溝などから出土している。天目茶椀、瀬戸灰釉鉢がある。

（4）江戸時代

耕作溝、土採り穴から出土している。施釉陶器椀皿、染付皿、人形などがある。

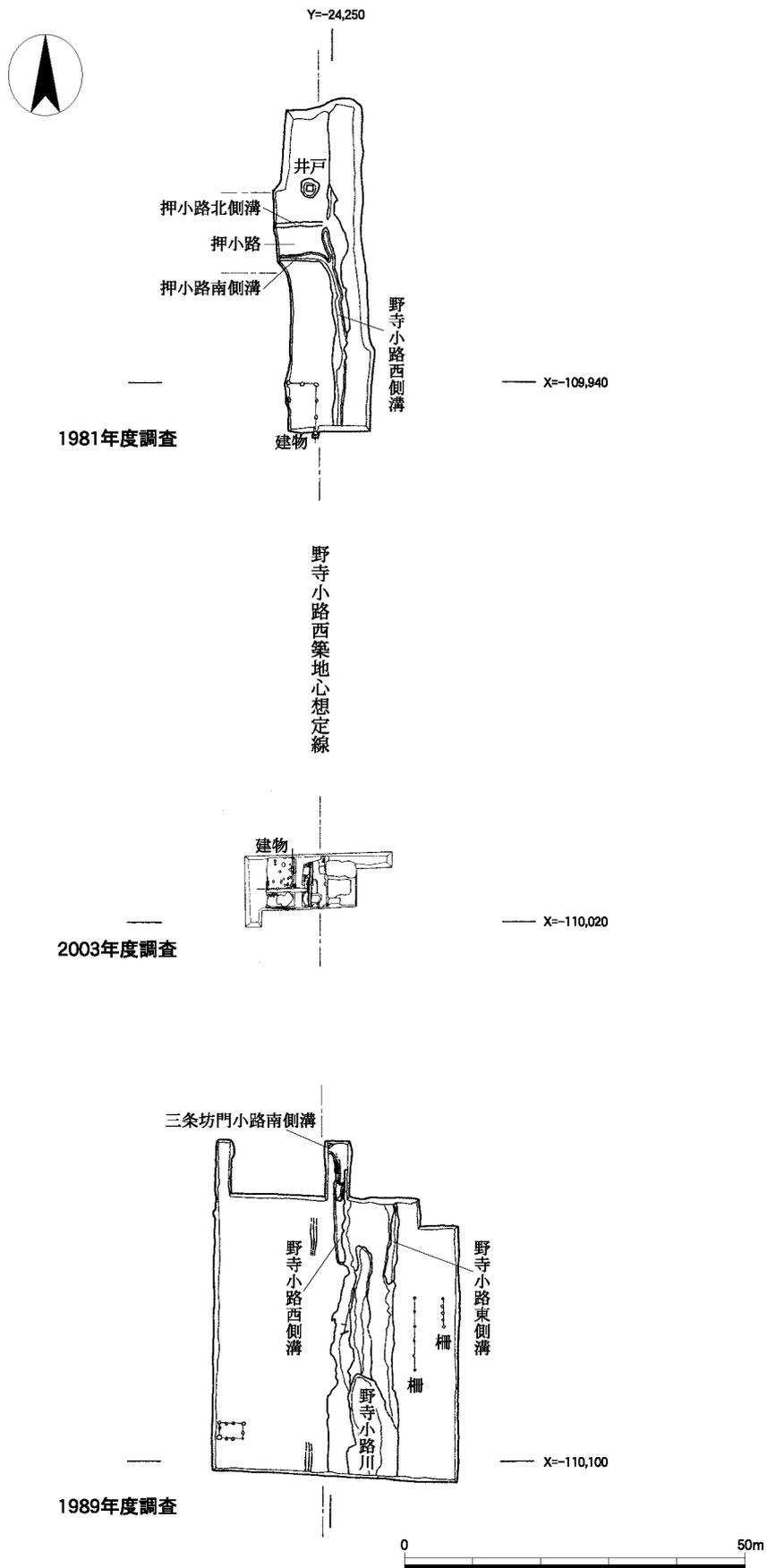


図11 野寺小路沿い調査地遺構配置図(1:1,000)

4.まとめ

平安時代の遺構では、野寺小路の西側溝と断定する溝は見当たらない。これは、1989年度調査においても、その調査区の北側3分の1では側溝が残るが、それ以南は野寺小路川の氾濫によって削平されていた²⁾ことから、今回も同様に野寺小路川による侵食によって削平、消滅したことによるとみられる。したがって、野寺小路内を流下する野寺小路川も氾濫などにより、場所によって多少の蛇行をしていたことがわかる。

平安時代後期においては、柵の北端は野寺小路西築地心想定線にほぼ重なる。座標北に対して若干西に振れる。1981年度調査の柵110が築地想定線より西に位置し、座標北に対して東に振れていた³⁾のとは異なる方位を示している。この結果が一定の傾向性を示すのか、局地的な現象なのか今後の調査において留意されるところである。

註

- 1) 図2・表1は、『平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「齋宮」の邸宅跡 - 』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 2002年 の記載内容をベ - スにした。
- 2) 木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3) 網 伸也「右京三条二坊十五・十六町の調査(第1次調査)」『平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「齋宮」の邸宅跡 - 』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 2002年

圖 版

報 告 書 抄 録

| ふりがな | へいあんきょううきょうさんじょうにぼうじゅうごちょうあと | | | | | | | |
|---|--|--------|--------|--------------------------|--------------------|--------------------------------|-------------------|---------------------|
| 書名 | 平安京右京三条二坊十五町跡 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 2003-8 | | | | | | | |
| 編集者名 | 津々池惣一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 所在地 | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1 | | | | | | | |
| 発行所 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2004年3月10日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうにぼう 三条二坊 じゅうごちょうあと 十五町跡 | きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしのきょうひがしなかあい 西ノ京東中合 ちょう 町 | 26100 | | 35度 00分 29秒 | 135度 44分 03秒 | 2003年11月 4日～2003 年12月26日 | 150m ² | 高速鉄道 東西線 建設工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 平安京右京 三条二坊 十五町跡 | 都城 | 平安時代中期 | 建物・土壇 | 土師器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器・白磁 | | | | |
| | | 平安時代後期 | 川・柵・柱穴 | | | | | |
| | | 室町時代 | 溝・耕作溝 | | | | | |
| | | 江戸時代 | 耕作溝 | | | | | |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-8
平安京右京三条二坊十五町跡

発行日 2004年3月10日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961